令和6年度 自己点検・自己評価

・よく当てはまる: (・大体当てはまる: 2 評価基準 令和6年度 令和5年度 評価 評価 教育理念・教育目的 担当 担当 ・教育理念や教育目的・目標は、学生便覧や学校案内、ホームページ、 ・教育理念や教育目的・目標は、学 生便覧や学校案内、ホームページ、 各教室にも掲示をして学生への浸透 を図っている。また、新入生に対し 教育理念. 教育目的が学生の学習指 ブリック用紙に教育理念 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。 教育ほぶ、教育日的が子主の子首相 針となっているかは、令和5年度末に 完成したDPルーブリック評価表を 用いて、学生自身が自己評価し、学 育目的を記載して学生の意識づけ を行う。 ・卒業時の看護師に求められる実践 1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。 3 を図っている。また、副校長より新 習状況を見直し、到達できるよう指導・支援をしていく必要がある。 DPルーブリック評価表の活用方針 ては入学ORの時に説明している。 入生に対しては入学ORの時に説明 能力のアンケート調査結果の分析と 妥当性検証が必要である。。 ンている。
・今年度より、DPを設定したが学生の学習指針となっているかは不明 ・ DP評価はしているが、教育理念 目標とのつながりを認識しているか 確認できていないため学生の学習指 針となっているかは不明である。 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。 を学生、教員に周知し、今後活用し 2-2教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。 2 学校教育法、教育基本法、指定規 学校教育法、教育基本法、指定規 則の要件に沿って運営している。 3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。 ラバス、授業計画、単元のねらい、 内容・教育方法についてはカリキュ 3 - 2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。 3 授業形態などを授業概要として具体 ラム改正に伴い、シラバスの書式を 畑 変更し、授業計画、単元のねらい、 授業形態などを授業概要として具体 的に示した。 3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。 3 割 地 的に示した。 4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。 地 は学生便覧に運営機構として載せて 環境として、教員については学生便 おり、教育方法については履修要覧 覧に運営機構として載せており、教育方法については履修要覧に載せて 4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。 3 3 に載せている。 ・看護、看護学教育、学生観につい てはアドミッションポリシーやディ ブロマポリシーを教育課程に明示し いる。 ・看護、看護学教育、学生感につい 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。 てはアドミッションポリシーやディ ている。 プロマポリシーを教育課程に明示し 5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。 3 2 令和6年度 令和5年度 評価 評価 教育目標 担当 改善点・対策 担当 改善点・対策 点 教育目標は、教育埋念・教育 ・教育目標は、教育理念・教育 1 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。 目的と一貫している。 票の内容精査と運用システム*の* は卒業時の到達目標に対し帰納 ・卒後の状況については母体症 学年別目標とDPとの整合性 2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。 的に抽出し、教育理念、教育目 院に勤める卒業生の状況を確認 が不十分であるが、昨年から課 ・卒業生へのアンケートの実施 的との整合性やDPや目指す看 しているが、評価がどこに活か 題残るがシステム構築がされてと、継続的に行えるよう仕組み いないことから改善につながっ づくりを行い評価する。(ホー 原 護師像をもとにカリキュラムツ されているのか不明確である。 2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。 リーで科目の関連性も確認して また、限定された卒業生の評価 ムページの活用など) 3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。 いたが、教育目標とDPの表現 になっている。そのため、卒後 .卒後の継続教育については、 として、到達レベルに相違が生 の活躍状況についてのアンケー 卒業生へのアンケート実施して 3-2 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。 じている箇所があることがわかトを同窓会の場を活用して行っ おらず、評価できない。 割 たり、卒後の卒業生たちがアン ・卒後の継続教育については、 地 4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。 3 地 3 教育目標6に謳っているが、卒 りを構築することが必要。 後の状況の把握が不十分であり 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。 2 教育目標の評価がしにくい状 令和6年度 令和5年度 評価 評価 Ш 教育課程経営 担当 評価 改善点・対策 担当 評価 改善点・対策 ・カリキュラム評価計画を作成・ディプロマポリシーの達成に 今年度、カリキュラム評価計 ・ディプロマポリシーの達成に 画を作成し、共通理解できてい むけて科目の配列が意図的に記 むけて科目の配列が意図的に計 し、共通理解できている。 画されていることを学生に理解 画されていることを学生に理角 3 1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。 3 してもらうため、学生便覧にカ リキュラムツリー図を追加する してもらうため、学生便覧にた リキュラムツリー図を追加する 1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。 3 3 ・評価結果の活用における倫理 評価結果の活 <教育課程経営者の活動> ・新カリキュラムの 用における倫理規定を明確にす ・新カリキュラムの教育理念 規定を作成する必要がある。 数育理念・目的・目標からおりる。 目的・目標からおりた科目の 1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 3 3 た科目の考え方が明記されてい 考え方が明記されている。 1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 3 新カリキュラムの運用にあた 1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。 3 新カリキュラムの運 3 用にあたって共通理解のもと一 って共通理解のもと一貫した教 貫した教育活動を行っている。 育活動を行っている。 ・学生便覧、履修要 ・学生便覧、履修要覧に教育 1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。 覧に教育課程の構造図と考え方 課程の構造図と考え方を載せて を載せている。 1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。 島 ディプロマポリシーを活用し 、学修の到達度と学生の成長評 3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。 3 科目の単元については 価について明確にしている。 重複を避けなお関連性をもた 2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である 3 3 利 せて構成した。その考え方や内 容は履修要覧に載せている。 2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。 利 3 科目を中心に、重複を避けなお ・構成した科目は看護師 関連性をもたせて構成した。そ 等養成所の運営に関する指導ガ <教育計画> ш イドラインに則って構成してい の考え方や内容は履修要覧に載 せている。 1-1単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。 3 3 構成した科目は看護師等養成 ・医師会の附属看護学校で 所の運営に関する指導ガイドラ 2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。 インに則って構成している。 あることから、地域住民の健康 と生活を支援できるよう科目立 3 2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。 てしている。 医師会の附属看護学校であるこ とをふまえ、地域の特徴をとら え、現状と将来を見据えた科目 1-1単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。 3 履修については、学生便覧や履 立てをしている。 修要覧に明記している。順序は 1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。 教育的な効果をふまえ、進度表 として学生便覧に載せている。 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。 3 新カリキュラムの 科目の関連性についてはカリキ や履修要覧に明記している。順 ュラムツリー図を作成し、教員 序は教育的な効果をふまえ、進 3 3-1教育課程を評価する体系を整えている。 及び講師間で共通理解を図った **隻表として学生便覧に載せてい** 学生の理解を進めることが課 3-2評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。 <u>新カリキュラムの科目の関連</u> 教員の専門分野に担当を分けて、 <u>iである。 ・里</u> 専門に応じて講義を受け持て 積極的に領域横断科目を活用 <教員の教育・研究活動の充実> 授方法や授業構成について継続 計間配分もできている。 教材研究ができる時間も確保でき して、教員間の相互研鑽を行っ るよう配分している。 的に研修を受けて活用する。 1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。 ・新カリスタートに伴い新設科 目の評価のためにも研究授業を 教材研究時間確保は業務整理 ・すべての教員が研究 研修案内が回覧されたり、上司か の上確保している。・外部研修 授業を実施し、発展させていく らの勧めによって外部研修が受講で きている。研修費用の予算も確保で 1-2 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。 についてはリモートやEラーニ 必要がある。 積極的にしていく。 ングを活用し、受講できた。研 修費用も確保できている。・教 相互研鑽のシステムはあるが、今 3 3 2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑚のシステムを整えている。 年度は研究授業の実施ができていな 員間での相互研鑚の場である研 ・ しかし、領域横断科目を活用し 他領域の教員と協力体制を組むこ 2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑚のシステムを整えている。 究授業は実施しつつある。(今 各実習要項を通じて教育目的や ・臨床指導者の役割は学校の方 臨床指導者会議において、臨地 臨地実習指導者の役割について <学生の看護実践体験の保障> 目標を説明し、理解していただい 針を明確にして、状況の応じて 実習要項や領域別要項を用いて、 教育理念・目的、目標の説明を行 ていく。 実習場と協議を継続していく。 1-1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。 内 ・学内で実習指導者の役割は作成 っている。また、紙面上で臨床指 したが、実習場個別の状況もあり 導者の役割を明確にはしていない 前年度の分析を基に計画的 1-2 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。 3 -律の取り決めまでは至っていな が、口頭で説明をして学校側と実 こ安全教育を継続していく。 禮 い。新型コロナ流行中の受け入れ 習施設側双方で確認をしている。 ・受け持ち対象については個人情 で臨床の状況にも左右されるため 2 2-11臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。 詳細は指導教員との打ち合わせ 報保護の誓約書を提出し、受け持 のもと随時役割を担ってもらって 地 2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。 録に残し、了承を得て受け持って いる。実習の学習の中で倫理的関 ・受け持ち対象についてけ個人情 2-3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。 3 3 報保護の誓約書を提出し、受け持 わりや人権の尊重を指導している ち時の同意書、同意を得た旨を記 3-1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。 録に残し、了承を得て受け持って ヒヤリハットにおいては、発生 いる。実習の学習の中で倫理的関 時は速やかに指導者と管理者に報 告するシステムがあり、必要な対 3-2対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。 わりや人権の尊重を指導している 応はできている。 臨地実習の機会が増えヒヤリバ 3 4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。 分析結果を学生に随時開示したう ット、事故報告書の提出は増加傾 えで指導している。 4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。 3 分析

	* 学習・評価過程 業内容と教育過程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の関連と発展> の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。 内容のまとまりの考え方を明確に述べている。 内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。 内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。 に単位認定のための評価基準と方法を公表している。 に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	担当大川内・玉利・牟禮	新 3 3 3 3 2 3 3 2	新カリキュラムの教育内容構築が具体的に進み、昨年度課題であった発展性でついても協議し具体的になりつつある。また旧カリキュラムについても積極的に新カリキュラムに準ずる内容となるよう見直しを進めている。	み上げや発展性が明確になった。 連用が開始されているため次年度の評価が必要である。 ・学生の学習を深化、発展させるための授業計画について現在具体的に構築中である。そのため次年度、進捗について点検が	担当	3 3 3 3 3 3	新門個 教育目的・目標に近づけるため のディプロマボリシールーブリック運用が開始され評価を始め ている。 領域横断科目では、それぞれの 担当う教員と連携を行い、発展 的な授業ができるよう工夫して いる。さらに、教育内容の幅広げ を精選し、学習内容の幅広げ ることにつながっている。	に生かしながら、さらに発展的な教育に繋げていく必要がある。 学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
1 授業の 2 - 1 授業内 2 - 2 授業内 3 授業 株 4 授業 株 1 授業 来 1 授業 来 2 授業 来 3 授業 の 4 学生に 1 - 1 評価結 2 - 1 学生お 2 - 2 教育 3 - 1 学生に 3 - 2 単位認 〈学習 1 - 1 シラバ V 経営・ (会成所	の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。 内容のまとまりの考え方を明確に述べている。 内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。 内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 3 2 3 3 2	が具体的に進み、昨年度課題であった発展性についても協議し 具体的になりつつある。 は新カリキュラムについてもである。 をなるよう見直しを進めている。 となるよう見直しを進めている。 ・ 履修要覧の記載内容を統一し、 授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 ・ 演習等を行う際の教員間の	のディブロマボリシールーブリックが完成し、1年次からの積み上げや発展性が明確になった。		3 3 3	のディプロマポリシールーブリック運用が開始され評価を始めている。 領域横断科目では、それぞれの 担当う教員と連携を行い、発展 的な授業ができるよう工夫している。さらに、教育内容の幅を広げ を精選し、学習内容の幅を広げ ることにつながっている。 ・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	であったため、その他の科目間での連携を密に行い、授業評価に生かしながら、さらに発展的な教育に繋げていく必要がある。 学生の学習を深化、発展させるための授業計画について、さらに強化して学習支援を行ってい	
2-1 授業内 2-2 授業内 3 授業内 4 授業 株 2 授業 株 1 授業 株 2 授業 果 3 授業 果 4 学生に - 1 年 評価 1-1 評価 2-1 学生 育 2-2 教 学生に 3-1 学生に 3-2 単位認 - 2 学 学 ・ シラバ 1-1 シラバ V	内容のまとまりの考え方を明確に述べている。 内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。 内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 3 2 3 3 2	が具体的に進み、昨年度課題であった発展性についても協議し 具体的になりつつある。 は新カリキュラムについてもである。 をなるよう見直しを進めている。 となるよう見直しを進めている。 ・ 履修要覧の記載内容を統一し、 授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 ・ 演習等を行う際の教員間の	のディブロマボリシールーブリックが完成し、1年次からの積み上げや発展性が明確になった。		3 3 3	ック運用が開始され評価を始めている。 領域横断科目では、それぞれの 担当う教員と連携を行い、発展 的な授業ができるよう工夫しいる。さらに、教育内容の幅を広げ ることにつながっている。 ・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	での連携を密に行い、授業評価 に生かしながら、さらに発展的 な教育に繋げていく必要がある。 学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
2-2 授業内 3 授業内 4 授業 株内 2 授業 株別 1 授業 株別 2 授業 業の原 4 学生に 1-1 評価結 2-1 学生育 2-2 教学生に 3-1 学生育 3-1 学生で 3-2 単位認 1-1 シラバ 1-2 シラバ V 機計・ 1-1 養成所	内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。 内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 3 2 3 3 2	具体的になりつつある。また旧カリキュラムについても積極的に新カリキュラムに準ずる内容となるよう見直しを進めている。 ・ 履修要覧の配載内容を統一し、一授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、一評価についても具体的に説明している。	ックが完成し、1年次からの積 み上げや発展性が明確になった。運用が開始されているため次 年度の評価が必要である。 ・学生の学習を深化、発展させ るための授業計画について現在 具体的に構築中である。そのた め次年度、進捗について点検が		3 3	領域横断科目では、それぞれの 担当う教員と連携を行い、発展 的な授業ができるよう工夫して いる。さらに、教育内容の重を を精選し、学習内容の幅を広げ ることにつながっている。 ・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	な教育に繋げていく必要がある。 学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
3 授業内 4 授業内 4 授業内 2 授業果 1 授業果 3 授業の 4 学生に <目標 1-1 評価計 1-2 評価結 2-1 学生育 3-1 学生に 3-2 単位認 <学学 1-1 シラバ V 経営設置 1-1 養成所	内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。 内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 加展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 2 3 3 2	カリキュラムについても積極的に新カリキュラムに準ずる内容となるよう見直しを進めている。 ・ 履修要覧の記載内容を統一し、 授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 ・ 演習等を行う際の教員間の	み上げや発展性が明確になった。 連用が開始されているため次年度の評価が必要である。 ・学生の学習を深化、発展させるための授業計画について現在具体的に構築中である。そのため次年度、進捗について点検が		3	的な授業ができるよう工夫して いる。さらに、教育内容の重複 を精選し、学習内容の幅を広げ ることにつながっている。 ・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
4 授業内 く授業 1 授業形 2 授業展 3 授業展 4 学生に く目標 1-1 評価結 1-2 評価結 2-1 学生育 2-2 教育 3-1 学生に 3-2 単位認 く学習 1-1 シラバ V 経営・ (会) 1-1 養成所	内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。 業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 3 2	となるよう見直しを進めている。 ・ 履修要覧の記載内容を統一し、 ・ 授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 - 評価についても具体的に説明している。 ・ 演習等を行う際の教員間の	年度の評価が必要である。 ・学生の学習を深化、発展させ まための授業計画について現在 具体的に構築中である。そのた め次年度、進捗について点検が		3	を精選し、学習内容の幅を広げることにつながっている。 ・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
1 授業形 2 授業展 3 授業の原 4 学生に 1 - 1 評価結 2 - 1 学生お 2 - 2 教育目 3 - 1 学生に 3 - 2 単位認 1 - 1 シラバ V 経営・ 1 - 1 養成所	業の展開過程> 形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3 3 2	授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 演習等を行う際の教員間の	るための授業計画について現在 具体的に構築中である。そのた め次年度、進捗について点検が			・学生の学習を深化、発展させる ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
1 授業形 2 授業展 3 授業の頒 4 学生に <目標 1-1 評価結 1-2 評価結 2-1 学生育 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3	授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 演習等を行う際の教員間の	るための授業計画について現在 具体的に構築中である。そのた め次年度、進捗について点検が		3	ための授業計画について具体的に 作成し、学生にも提示して授業展	ための授業計画について、さら に強化して学習支援を行ってい	
1 授業形 2 授業展 3 授業の原 4 学生に <目標 1-1 評価結 1-2 評価結 2-1 学生お 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	形態 (講義、演習、実験、実習) は、授業内容に応じて選択している。 展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3	授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 演習等を行う際の教員間の	るための授業計画について現在 具体的に構築中である。そのた め次年度、進捗について点検が		3	作成し、学生にも提示して授業展	に強化して学習支援を行ってい	
2 授業展 3 授業の原 4 学生に < < 目標	展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。 D展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	川内・玉利・牟	3	授業開始時に明示し授業計画の把握がしやすくなっている。また、 評価についても具体的に説明している。 演習等を行う際の教員間の	め次年度、進捗について点検が			開している。授業についてはシミ		
3 授業の朋 4 学生に く目標 1-1 評価結 2-1 学生的 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 ベ学習 1-1 シラバ V 経営・ く設置 1-1 養成所	の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。 に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	2	- 評価についても具体的に説明している。 - 演習等を行う際の教員間の				ュレーションモデルの活用や様々	< ∘	
4 学生に	に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。 標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟		・演習等を行う際の教員間の				な授業形態を活用している。領域 横断のみならず、他の授業におい		
く目標 1-1 評価計 1-2 評価結 2-1 学生お 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認	標達成の評価とフィードバック> 計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	川内・玉利・牟	3	協力体制はできている。複数教員	・教員の協力が必要		3	ても、教員間の連携を図り授業協 力を行っている。		
1-1 評価計 1-2 評価結 2-1 学生お 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 <学習 1-1 シラバ V 経営・ く設置 1-1 養成所	計画を立案し、実施している。 結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。	牟		の協力が必要な授業形態について	0.12214111111111111111111111111111111111	玉利・	3			
1-2 評価結 2-1 学生お 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 <学習 1-1 シラバ 1-2 シラバ V 経営・ く設置 1-1 養成所	結果に基づいて、実際に授業を改善している。 および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。 目標の達成状況を多面的に把握している。			・授業や実習は学生からの他者評 価を実施している。それに加えて		牟禮		・形成評価を取り入れ、授業展開 に生かしている教員もいる。演習	・一部教員が形成評価を実施しているため、全教員が実施でき	
2-1 学生お 2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 マ学習 1-1 シラバ 1-2 シラバ V 経営・ く設置 1-1 養成所	および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。目標の達成状況を多面的に把握している。	45	2	、学生たちが技術到達評価を自主 的に行った結果や、卒業前に「卒	・各科目のルーブリッ	出	2	などの評価は適宜行っているため 継続していく必要がある。		
2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 <学習	目標の達成状況を多面的に把握している。	1 .	2	業時に到達すべき目標」の学生評価を用いて、教育活動の評価を行	クを完成させ、教育目標達成の		2	・新カリキュラムにおいて、教育	、授業開始前に計画し、学生に	
2-2 教育目 3-1 学生に 3-2 単位認 <学習 1-1 シラバ 1-2 シラバ V 経営・ <設置 1-1 養成所	目標の達成状況を多面的に把握している。	山田	3	っている。現在、他者評価は科目 の総括評価になっているため、授	検証へつなげる。		3	ブリックが完成し、評価している。また、実習のルーブリック評価	提示し段階的に授業評価を行い 、授業改善につなげていく。	
3-1 学生に 3-2 単位認 <学習 1-1 シラバ 1-2 シラバ V 経営・ <設置 1-1 養成所		1	3	業の展開を評価するための形成評			3	表が完成し、次年度から運用・評	・実習のルーブリック評価表が 完成し、次年度から運用・評価	
3-2単位認 <学習 1-1シラバ 1-2シラバ V 経営・ <設置 1-1養成所	17年世俗たのだのの計画を学と方法で公衣している。	1		価を取り入れることが必要である -	・現行のシラバスの評価・点検 と自発的学習につながっている かの検証が必要である。		3	・ 入学時に、学生便覧と履修要覧 (シラパス)は無にして、学生個々に渡し内容を説明している。	していく予定である。	
<学習		-	3	・新カリキュラムにおいて、教育 目標、ディブロマポリシーのルー ブリックが完成し、現在各科目目 標の再確認とルーブリック作成に 取り組んでいる。これにより、教 育目標の達成度検証につなげてい く予定である。 ・入学時に、学生便覧と履修要覧 (シラバス) は1冊にして、学生						
1-1シラバ 1-2シラバ V 経営・ <設置 1-1養成所	認定の評価には公平性が保たれている。		3				3			
1-2シラバ V 経営・ <設置 1-1養成所	習への動機づけと支援>	1							・現行のシラバスの評価・点検 と自発的学習につながっている	
▼ 経営・ <設置 1-1養成所	パスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		3	個々に渡し内容を説明している。 また、授業開始時にもシラバスを			3		か、授業評価または実習評価の	
▼ 経営・ <設置 1-1養成所				用いて、実習を行っている。 ・シラバスを今年度から改善し、				m	自己評価を参考に評価する。学 生の授業の取り組みの中間評価	
<設置 1-1養成所	バスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		3	学習準備につなげられている。			3	・シラバスには、各単元ごとのねらいを表記し、学生の学習動機へ	を行うことの検討が必要。	
<設置 1-1養成所								と繋げている。		
<設置 1-1養成所				令和5年	 度			令和6年	度	
1-1養成所	・管理過程	担当	評価	高平 1000	改善点・対策	担当	評価	評価	改善点・対策	
	置者の意思・指針>								アセスメントポリシー未作成に	
	所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。		3	_			3	DP達成のためのルーブリック	て、今後明示する必要がある。	
	所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	1	3	・学生便覧に教育理念・教育目 的・目標は載せている。中長期 計画で	・ルーブリックの運用、アセス メントポリシーを作成し明示す		3	」評価は現在運用中である。管理 運営は中長期計画にて明示して		
1 — 3 養成所	所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	1	2				2	おり、管理運営の考え方につて は運営会議で承認されている。		
	所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	1	3	 ・今 年度、DP達成のためのルーブ	S.		3	-		
				_ リックを作成した。				-		
	した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	1	3		させた連宮とする」を一又追加する。		3	」ては未作成である。 ・教員は看護師等養成所の運営 に関する指導ガイドラインに基	・学坊繁畑フェュアルの聨昌を	
1-6教職員	員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	貴					3			
<組織	織体制>	島				貴			議規定・教員会議規定・実習会 議規定に「教職員の意見を反映 させた運営とする」を一文追加	
1-1養成所	所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	橋	3	・権限や役割機能について、校 - 務分掌や組織図で明確にしてい		島・	3			
1-2意思決	決定システムが明確になっている。	元・	2	るが、意思決定システム及び教 - 職員の任用の考え方が文書化さ		橋元	2			
1-3意思決	決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	出口	2	れていない。	・組織管理規定に、第3 章「組織体制」として追加をし		2	づき任用してる。また教職員の 任用の考え方については「看護		
1-4 意思決	決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。		3	お呼号の合理相会	、教職員の任用の考え方を明示 した文書、教職員の選考、資格	出口	3	学校管理マニュアル」の職務基準に明記している。		
2-1組織の	の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	畑	2	- ・教職員の倫理規定 について明示した文書がない。	審査、任免、昇格等に関する規定を明記した文書、講師選定の		3			
2-2 教職員	員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。		2		考え方を明記した文書を追加す		3	- ・教職員の倫 理規定については医師会「諸規		
<財政	政基盤>			1	\dagger \dagge			・財政基盤の考え方は、前年度		
1-1財政基	基盤を確保することについての考え方が明確である。	1	3	-・財政基盤の考え方は、前年度 の収支と今年度の予算をもとに			3	の収支と今年度の予算をもとに 職員会議で共通理解を図り、運		
	基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。		3	一職員会議で共通理解を図っている。			3	_ 営会議で承認を得ている。		
	には、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。		3	-			3	-		
シリ教戦員		-		・長期計画をもとに、I Pad購入予定とし、ICT教			3	-		
2 - 2 教職員0	員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		3	育につなげる予定である。			3			
<施設	設設備の整備>		_	・設備、備品の整備については、	・心・知・体賞や多読賞につい		/	・設備、備品の整備については、	・万能型看護実習モデルの購入	
	・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	1	3	_ 本校の中長期計画で実施されている。職員・学生が使用するパソコ	紹介し学生の意欲向上につなげ		3	る。職員・学生が使用するパソコ	・心・知・体賞や多読賞につい	
		1	3	」ンは次年度更新予定である。 ・「Sinario」はリース契約で使用	る。また、受賞者に贈呈してい る図書カードを学生が利用しや			ンは令和6年度更新済みである。 ・「Sinario」はリース契約で使用	て、入学オリエンテーションで 紹介し学生の意欲向上につなげ	
	者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	1	_	している。学内実習での活用が増加しているため、次年度も継続予	すいQUOカードに変更できない か検討する。		3	している。学内実習での活用状況 を確認し、次年度は契約なし。	る。受賞者に贈呈している図書 カードを学生が利用しやすいQ	
	の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	-	3	定である。 -・万能型看護実習モデルは次年度	~ 1スロンフ 'OJ o		3	・万能型看護実習モデルは予算に 計上してあるが学生数減少に伴い	UOカードに変更できないか引	
	・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	4	3	までかけて既存のモデル人形とす べて入れ替えが終了予定である。			3	、購入までには至らなかった。次 年度以降、購入を検討していく。	き続き検討する。	
3 一 1 養成所が	Fが設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。	1	3	・次年度にむけ電子テキストを導一入予定である。			3	・電子テキストを導入し活用している。		
3-2学生が質	が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	橋元・出口	3	・福利厚生の施設・設備について は校内にWifiが整備されている。 学生と教員が協力し校内で快適に 過ごせるよう整備・清掃している。 また、学生に対し心・知・休貞 や多読賞の受賞者に図書カードを 贈呈している。		橋元・玉	3	・福利厚生の施設・設備について は校内にWifiが整備されている。 また、前校長より、椅子の寄贈が あった。今後も学生と教員が快適 に過ごせるよう福利厚生を検討し ていく必要がある。学校環境につ いて、学生と教員が協力し校内で		
<学生		· 山		・掲示板や始業式、入学オリエン テーションなどで各相談窓口や担	・学生の悩みも多様化している ため、今後も本人のニードを把	利		・掲示板や始業式、入学オリエン テーションなどで各相談窓口や担	・学生の修学資金先(教育訓練 給付制度(専門実践教育訓練))の	
1 - 1 学生が	生生活の支援>	田	3	当者を紹介している。学年担当・ 進路担当・奨学金担当・健康管理	握したうえで、支援者である家	711	3	当者を紹介している。学年担当・	拡大に向け、検討する。	
1 - 2 学生が	生生活の支援> が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。			—		Lm				
1 — 3 支援体		- 玉 - 利	3	─担当などで対応している。・経済的支援として、附属の広域	続の道を選択できるよう、情報	ЖП	3	担当などで対応している。 ・経済的支援として、附属の広域	ため、今後も本人のニードを把握したうえで、支援者である家	

	AND AND LOCATION AND AND AND AND AND AND AND AND AND AN			・入学ORで保護者へのORも行って	・学校活動についてインスタグラ			✓・入学ORで保護者へのORを行って	学校活動についてインスタグラ
	<養成所に関する情報提供>		_	いるが全員参加ではない。成績表 発送は第1保証人へ行って情報提	ムで情報を得る機会が多いため、		\angle	いるが全員参加ではない。成績表	
1 – 1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。		3	供している。また、単位に関わる	ージにもインスタグラムの案内を		3	供している。また、単位に関わる	ージにもインスタグラムの案内を
1 – 2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。		3	字生に関しては本人の「承のもと 、保護者・委託病院への情報提供	提示する。学習困難者に対しては 継続して情報提供を行う。		3	学生に関しては本人の了承のもと 、保護者・委託病院への情報提供	継続して情報提供を行う。
2 – 1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。		3	を行っている。 ・今年度のオープンキャンパスで	・インスタグラムはこまめにフォ ローを行い、繋がりを広げていく		3	を行っている。 ・今年度もオープンキャンパスに	・インスタグラムはこまめにフォ ローを行い、繋がりを広げていく
				は出水准看学校2年生全員が参加 できるよう調整して頂いた。夜間				出水准看学校2年生全員が参加で	必要がある。学生の投稿以外にも
		橋元		開催も実現し、オープンキャンパスの参加者から7名の進学があり効果的であったと考える。。	・阿久根市役所との繋がり継続し 教科外活動を通して地域住民との 交流の機会を設ける。	貴島		催も実現し、オープンキャンパス の参加者から10名の進学があり効 果的であったと考える。	
		玉		・ボランティア活動では、地域の	・カリキュラム内容に魅力が持て る授業の工夫を行うなど、学生間	中			
2 – 2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	利	3	招いた意見交換会を行うなど地域	で本校の口コミが広がるよう教育	原	3	招いた意見交換会を行うなど地域	で本校の口コミが広がるよう教育
		中		交流の機会を設けることができた。また、インスタグラムや学校案		橋		交流の機会を設けることができた。また、インスタグラムや学校案	活動に刀を入れる。
		原		内の発送、ポスター貼付(150枚、 九州内の学校、出水・阿久根地区		元		内の発送、ポスター貼付(九州内の 学校、出水・阿久根地区のスーパ	
		· 石		のスーパー、施設など)を行った。 ・進学ガイダンスにも参加したが		· 石		一、施設など)を行った。	
	/美子にの場合計画に使り体和>	澤		・本校の教育・経呂万軒につじ		澤		・ 本校の教育・経呂万軒につい	
	<養成所の運営計画と将来構想>		_	ては、運営委員会や第三者委員 会で報告しており、自己評価・			_	ては、運営委員会や第三者委員 - 会で報告しており、自己評価・	
1 – 1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。		3	自己点検結果はホームページに 公表している。			3	自己点検結果はホームページに 公表している。	
				・第5次カリキュラム改正をも とにした中長期計画を立案して				・第5次カリキュラム改正をも とにした中長期計画を立案して	
1 – 2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。		3	いる。			3	いる。	
				・年度はじめに前年度の評価と 当該年度の計画について共有し				・年度はじめに前年度の評価と 当該年度の計画について共有し	
	ノロコを持ったコ類体が関う			ている。前年度の評価に基づき ・自己評価委員を中心に、委員会				ている。前年度の評価に基づき ・自己評価委員を中心に、委員会	・自己評価・自己点検の結果を
	<自己点検・自己評価体制>	貴	_	に全職員が参加しており、目的や 評価方法を確認している。	もとに、教育活動の維持・改善 につなげていく。	Л	_	に全職員が参加しており、目的や 評価方法を確認している。	もとに、教育活動の維持・改善 につなげていく。
1 – 1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	島	3	・評価は「評価の考え方」と「点 検」を参考に、毎年度末に実施し		畑	3	・評価は「評価の考え方」と「点 検」を参考に、毎年度末に実施し	・年度末のカリキュラム評価後
1 – 2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	出	3	ている。結果は、講師会議や第3		玉	3	ている。結果は、ホームページで	に全体共有する時間を設ける必 要がある。
2 – 1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。		3	者評価委員会で公表し、意見を頂 きながらカリキュラム運営や授業		利	3	■も公表している。その結果を踏ま ■えてカリキュラム運営や授業実践	
2 – 2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。		3	実践に活用している。また、ホームページでも公表している。・改		出	3	に活用している。 ・改正された内容で教育活動を実	
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	畑	3	正された内容で教育活動を実践している。ディプロマポリシーのル			3	践している。ディプロマポリシー のルーブリック評価を含めて、継	
		L		ーブリック評価を含めて、継続して自己占統・自己証価を行ってい				続して自己点検・自己評価を行っている	
				令和5年	 度			令和6年	 度
VI	入学	担当	評価	評価	改善点・対策	担当	評価	評価	改善点・対策
			点	・入学者選抜基準は学校管理マニ	・入学者選抜方法の妥当性	橋	点	・入学者選抜基準は学校管理マニ	
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	橋	3	ュアルの入学試験判定基準に謳わ れており、判定の目安が決められ	とアドミッションホッシー	元	3	ュアルの入学試験判定基準に謳わ れており、判定の目安が決められ	
		元・		ている。また、学校パンフレット にもアドミッションポリシーにも		貴		_ ている。また、学校パンフレット にもアドミッションポリシーにも	
		大		明記している。しかし、前年度課 題であった入学者選抜についての		島		明記している。 ・受験者・入学者ともに減少して	
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	内	2	妥当性の分析が行えていない。し		出	2	おり、妥当性分析は困難な状況に	
				かし、受験者・入学者ともに減少 しており、妥当性分析は困難な状		П		ある。	
				令和5年	度	令和6年度			
VII	卒業・就業・進学	担当	評価	評価	改善点・対策	担当	評価	評価	改善点・対策
							///	さ*##のないませいロルカ*####	
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。			・卒業時の到達状況は卒業時技					・卒業後の情報交換や連絡手段
	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。		_	・卒業時の到達状況は卒業時技 術評価を用いて行っている。そ		大	_	評価を用いて行っている。また	・卒業後の情報交換や連絡手段 が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の
2 – 1	卒業時の到達状況を分析している。	大	3		・卒業生の活動状況の統計的情	Ш	3	評価を用いて行っている。また 、DPルーブリック運用3年目で ある。次年度では新カリキュラ	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。
2 – 1		Ш	3	術評価を用いて行っている。そ のうち、技術的側面については 分析の上新カリキュラム検討と し、DPのルーブリック作成に	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA		3	評価を用いて行っている。また 、DPルーブリック運用3年目で ある。次年度では新カリキュラ ム対象学年が卒業年度となるた め、ルーブリック運営を随時評	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に
2 – 1	卒業時の到達状況を分析している。	川 内 ·		術評価を用いて行っている。そ のうち、技術的側面については 分析の上新カリキュラム検討と し、DPのルーブリック作成に 繋げた。今後はルーブリック運 営を随時評価修正することが必	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA	Ш		評価を用いて行っている。また、DPルーブリック運用3年目である。次年度では新カリキュラム対象学年が卒業年度となるため、ルーブリック運営を随時評価修正することが必要となる。 ・卒業後の調査や情報交換は母	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。	Ш	3	術評価を用いて行っている。そのうち、技術的側面については分析の上新カリキュラム検討とし、DPのルーブリック作成に繋げた。今後はルーブリック運営を随時評価修正することが必要となる。 ・卒業後の調査や情報交換は母	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム	川内・割地・	3	評価を用いて行っている。また 、DPルーブリック運用3年目で ある。次年度では新カリキュラ ム対象学年が卒業年度となるた め、ルーブリック運営を随時評 価修正することが必要となる。	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 $2-2$ $2-3$ $3-1$	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	川内・山田・	3 3 2	術評価を用いて行っている。そ のうち、技術的側面については 分析の上新カリキュラム検討と し、DPのルーブリック作成に 繋げた。今後はルーブリック運 営を随時評価修正することが必 要となる。	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用に繋げていく必要がある。	川内・割	3 3 2	評価を用いて行っている。また、DPルーブリック運用3年目である。次年度では新カリキュラム対象学年が卒業年度となるため、ルーブリック運営を随時評価修正することが必要となる。・卒業後の調査や情報交換関などー部に限られている。・薬線経路も確立していない。	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 $2-2$ $2-3$ $3-1$ $3-2$	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	川内・山	3 3 2 2	術評価を用いて行っている。そは のうち、技術的側面につ体討と 分析の上新カリキュラム検討と し、DPのルーブリック作成に 繋げた。今後はルーブリックを 選を随時評価修正することが必 要となる。 ・奔後の調査や情報交換は母 体病院限られている。 の連絡経路も確立していない。	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用に軽ばずいく必要がある。	川内・割地・橋元・	3 3 2 2	評価を用いて行っている。また、DPループリック運用3年目、DPループリック運用3年目ュースの。次年度が卒業年度と随時では、ループリンとが過速とと随時では、ループリンとが過速とをなるはなどを、機関をのいるで、一部に限路路・日本で、ロ連絡と路・日本で、はなどと、場られる情報が散しく、教育活動に反映	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 $2-2$ $2-3$ $3-1$ $3-2$	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	川内・山田・石	3 3 2	術評価を用いて行っている。では のうち、技術的側面についるでは りたの上新カリキュラム検討に りたのりでからではいーブリック作成と 繋げた。今後はルーブリック作ッ 繋げた。今後はルーブリックに変と をと随時評価修正することが をと随時評価修正することが を を発後の調査や情報を換関な ははなどと が病院、限られていることが の に限られている。 の 得られる情報が断片的で の 得られる情報が 数方活動に反映 分析が難しく、 教育活動に反映	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用に繋げていく必要がある。・同窓会を活用した卒業後の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋	3 3 2	評価を用いて行っている。また、DPループリック運用3年目である。次年を関係では新カリとなる。次年を原卒業年度となる。レープリック運営を随時によるでは、ループリックが必要となる。中本業後の調査や情報交換は母体病院や医的れている。で連終経路も確立していない、得られる情報が断片的であり、	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	川内・山田・石	3 3 2 2	術評価を用いて行っている。そはとのうち、技術的側面につ検討とりがあいます。 分析の上新カリキュラム検討とし、DPのルーブリック作成に建営を随時評価修正することが変となる。・卒後はルーブリンとが必要となる。・卒後の調査会内医療機関業との連絡経路も確立しているのでないる。でなないる。でなないる。でなないる。でなないる。でなないる。でなないる。付いるのは、といるでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用に繋げていく必要がある。・同窓会を活用した卒業後の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石	3 3 2 2	評価を用いて行っている。また 、DPルーブリック運用3年目で ある。次年度では新カリキュラ ム対象学年が卒業年度と随時記 一体第にである。立ちに ・卒業後の調査や情報療機関関で ・本郷に限られている。いなはな ・の連絡経路も確立していなり、 得られる情報が断片的であに、 できていない。	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	川内・山田・石	3 3 2 2	術評価を用いて行っている。では のうち、技術的側面についるでは りたの上新カリキュラム検討に りたのりでからではいーブリック作成と 繋げた。今後はルーブリック作ッ 繋げた。今後はルーブリックに変と をと随時評価修正することが をと随時評価修正することが を を発後の調査や情報を換関な ははなどと が病院、限られていることが の に限られている。 の 得られる情報が断片的で の 得られる情報が 数方活動に反映 分析が難しく、 教育活動に反映	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活力 も で で で で で で で で で で で で で で で で で で	川内・割地・橋元・石	3 3 2 2 1	評価を用いて行っている。また、DPループリック運用3年目である。までである。文学年が可度と、DPループリンク運用3年目である。学年が中で、TPループリンと随い、ループリンとを関係を表して、一個修工を、MPので、MPので、MPので、MPので、MPので、MPので、MPので、MPので	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	川内・山田・石	3 3 2 2	術評価を用いて行っている。そは のうち、技術的側面についるでは りか析の上新カリキュラク体対に し、DPのルーブリッククトで、 繋げた。今後はルーブリンとが 営を随時評価修 で、今後の調査や情報を関いて、 要と交換の調査や情報を関いて、 等に限られてなって、 の連絡経路も確立していてあいる。 の連絡経路も確立していてあい。 の連絡経路もでいるい。 の連絡経路をがあり、映できていない。	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活力 も で で で で で で で で で で で で で で で で で で	川内・割地・橋元・石	3 3 2 2 1	評価を用いて行っている。また、DPループリック運用3年目である。までである。次年度では新カリキュラム対象学年がで変え、空間では新力リーない。 大田・一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、一では、	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の剥達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1	術評価を用いて行っている。そはとり、DPのルーサキュラク作成と新力ガリック作成と対し、DPのルーガランリック作成と繋げた。今後はとはなる。の調査や情報を機関をとなるの調査や情報を機関を医師会の連絡経験と医師会のできていない。	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活力法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析で活用に繋げていく必要がある。・同窓会を活用した卒業後の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1	評価を用いて行っている。またで、DPループリック運用3年目である。までである。学年が少りでは新カリキュス対象学年が必要とを随います。中で東後の関係会校機関の主が必要とを決しておいる。中卒業後の関係会校機関を任め、ルエン・の連絡経路も確が断片的で動に反映をいる。の連絡経路も確が断けらいかが難しく、かできて度関窓総収集できたが、全年間、公板が変とのできたのでである情報が収集できたが、一个和6年	が限られている。ホームページ や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保する必要がある。 ・今年度収集した就業先情報を 整理・分析し、次の状況把握に つなげる。 改善点・対策 今後も同様の内容を継続して、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1 1	術評価を用いて何側面についるのではというの方が 大大術的明治キュラム作成の方が 大大術的リキュラクを対けた。今後は というの一般 はなる。 ではというでは、 はなどと。 なり、 はなどと。 なり、 はなどと。 なり、 はなどと。 なり、	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA Mのドメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステムに記し、分析や活用に繋げていく必要がある。の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1	評価を用いて行っている。またでした。またでした。またでした。 またで カる。 またで カム カス サース かん かん いん で また で かん ル に する を また で かん ル に する を また で かん ル に する を また で かん ル に する た に で また で かん が また で かん で か	が限られている。ホームページや同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保するしを確保するとの状況・ ・今年度収集した就業先情報を ・予理・分析し、次の状況把握に つなげる。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 本業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1 1	術評価を用いて行っているのではというでは、 技術的側面につい後間である。 そびおり 大大 大	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールンステムなど把握用も視野に入れながら、把握力法や情報の管理方法のシスス活がに繋げていくがある。他について検討した卒業の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1 1 1 評価点	評価を用いて行っている。またで、DPループリック運用3年目である。またでうるの。次年度で発生を発生されている。またでする対象学年が必要と交換はなどと、の連絡経路も確が断ち音がでいるにのできれている。といるが必要とならない。と、会にではながらきではない。と、会にではない。と、会にはなどとのでは、ないのでは、ないのをといるのでは、ないのをといるのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのをといる。と、または、ないのでは、ないのでは、ないのをといるが、全には、ないのでは、	が限られている。ホームページや同窓会を活用し、情報収集の手段を確保する必要がある。・今年度収集した就業先情報を受ける。・今年度収集したが、次の状況把握につなげる。 ・
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1 1	新評価を はなどと。 そはと	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法のシステム化について検討し、分析や活用に繋げていく必要がある。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1	評価を用いている。。またで 、DPルーダーは用3年日、 のDPルーダーは用3年日、 のある。象学が年がリウでは第3年度とない。 ・卒業をである。なななとい。 ・学等やでいるでは、ないのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集。 手段を度収集した就業先情報を ・今年度収集したが表が表情報を 整理・分析し、次の状況把握に かがし、次の状況を探求し、地看を は成の内容求求し、地看を がある看護学としての役割として、に になるものとしてるようにして、なに師 になるものとしてるようにして、に を になるものとしてるようにして、 にないます。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 本業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1 1	新評価を 大大の はなな はい はなな はい	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールンステムなど把握の援力法や情報の管理力法のシスマ活と、担保が関連を検討し、分析やに対して、分析のというでは、の活動を検討を検討した。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1 1 1 評価点	評価を用いている。。またでラムウルーグリッでは乗りなどと、からなりないでは開発を開発を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を関係を	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集。 手段を度収集した就業先情報を ・今年度収集したが表が表情報を 整理・分析し、次の状況把握に かがし、次の状況を探求し、地看を は成の内容求求し、地看を がある看護学としての役割として、に になるものとしてるようにして、なに師 になるものとしてるようにして、に を になるものとしてるようにして、 にないます。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	川内・山田・石澤	3 3 2 2 1 1	特評価を はなどと。 それと は などと。 それは と	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存の正名 MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握方法や情報の管理方法分れや活用に繋げていく必要がある。・同窓会を変がある。・耐寒会を振用した卒業後の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤	3 3 2 2 1 1 1 評価点	評価を用いていった。またで 、DPルーダーは用3年日、 のDPルーダーは用3年日、 ある。のでは新力度とを ある。学学年が中でなった。 のでは新力度とを はな生い。 ・卒業後である。ないな生い。 ・本病院・限らある。ないな生い。 ・神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集。 手段を度収集した就業先情報を ・今年度収集したが表が表情報を 整理・分析し、次の状況把握に かがし、次の状況を探求し、地看を は成の内容求求し、地看を がある看護学としての役割として、に になるものとしてるようにして、なに師 になるものとしてるようにして、に を になるものとしてるようにして、 にないます。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1 2-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	川内・山田・石澤 担 中	3 3 2 2 1 1 1	特評の 大田	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができて会い状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールシステムなどの活用も視野に入れながら、把握力法や情報の管理方法のシステムに関係する。 大田・一郎窓会を活用した卒業後の活動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤 当 中	3 3 2 2 1 1 1 評価点 3 3 3	評価を用いてリア・アーマー (1) によって、	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集の 手段を産収集した就業先情報に ・今年度収集したが表示情報に を整理・分析し、次の状況把握に を整理・分析し、次の状況・把握に を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 を整理・がある。 をを継続・して、にに になるものとして、といった。 になるものとうにして、といった。 になるものとうにしたもが考えられるようにしたもが考えられるように
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1 2-2 3-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	川内・山田・石澤 担 中原・	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	特別の大学では、はなどと。、ではと、連邦を関する活き、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールンステムなど把握力活法の指力法や情報の管理力法のシスマ活力、法や情報の管理力は、分析やに完けていて検討し要がある。を表している。を表している。	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	評価の上ででは、	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集。 手段を度収集した就業先情報を ・今年度収集したが表が表情報を 整理・分析し、次の状況把握に かがし、次の状況を探求し、地看を は成の内容求求し、地看を がある看護学としての役割として、に になるものとしてるようにして、なに師 になるものとしてるようにして、に を になるものとしてるようにして、 にないます。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1 2-2 3-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟	3 3 2 2 1 1 3 3 3	特のの大きなという。 ではというできない。ではというできない。では、大きないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のTEA MSやメールンステムなど把握力活法や情報の管理力法のシスマ活をの握力、分析やにでいて検討し要がある。他について検討し要がある。動状況把握を検討する。	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3	評価を用いてプログラス (1) では、 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	が限られている。ホームペ集の や同窓会を活用し、情報収集の 手段を確保集した変が業先情報を ・今年のの状況把握に を理り、次の状況把握に を整理ながある。 一支を探求し、次の状況把握に を整理など、できない。 一支を探求とし、地看護学生のようにしている。 を表している。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1 2-2 3-1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	特のの大きなと、映 特のの大きなと本族に関する。では対しているい人権にからた。 大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存のIEA MSやメールシステムなら、把握方出も視野に入れななの活用も視野に入れなら、把握テム化にでけてはく必要がある。 ・同窓会を活用した今業の活動状況把握を検討する。 ・対策 ・対策 ・対策 ・地域での活動を行う対象が、高対で個に偏にないくことが課題で個にないととが課題である。 ・新カリキュラムにおける教育理念や	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	評価の	が限られている。ホームペ集の や同気を活用し、情報の表を活用し必要が素先情報の表を活用し必要が素を報り、今年度収集を与したが、大力を関し、次の状況、把握に 今後も中庭収集・・今年度収集・・今年度収集・・今年度収集・・・今年度収集・・を要求の表でででは、地域のののででででは、地域ののののののでは、でいたものでである。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 1-2 2-1 2-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の刻達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	特の方がはななと。、ではと、連必とと、、映体の方がに、たちのでは、はなどと。、のでは対しているい、はないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況が続いている。同窓会や既存となどの活用も視野に入れなら、光でではでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	評価の上のでは、	が限られている。ホーム収集の中では、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動について、地域社会の二一ズを把握する手段をもっている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 <国際交流>	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3	特のうけいで、	・卒業生の活動状況の統計的情報収集ができていない状況で下さいない状況で下さいない状況で下さいない状況で下さいない状況で下さいない状況でできていない状況である。とからというに、一切なが、大きないのでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からないでは、からは、からは、からないでは、からは、からは、からは、からは、からは、からは、からは、からは、からは、から	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3	評価のアーマース (1) 中で (1) 中	が限られている。ホー情報の表示、情報の表示を活用の表示を活用の表示を活用の表示を活用の表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3	特の方代と、	・卒業生の活動状況の統計的情続 報収集ができる会や既存の活動、にない状況のでは、 田・ルシステムなど、把握テム用も視野に入れな方と、カスラムに、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3	評価の	が限られる。ホートのでは、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3	特のうけいでは、などといり、快年 「神」をできない。大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、	・卒業生の活動では、	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3	評価のアーマース (1) 中で (1) 中	が限られる。ホートのでは、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 本域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3	特の分析の上野で大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	・卒業生の活できる。 ・容集がよいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいないが表し、かある。 がいながあった。 がいながあった。 がいながらいたる。 をでした。 がいながらいたが必要がたる。 をでの偏ししする。 がいながよいがある。 をでの偏ししする。 がいいくことが課題がいたり、地域かはの人ではできる。 がいいくながらいたがるのののとといいましたが、地域がはいたり、地域がはの人できながる。 をでの偏ししていいくことが課題がはしていいくながりたいには、ないでは、 がいたり、地域がはないとと、対象ををしていいくながりという国がはできない。 がいたり、地域がは、の人で接つたがもとしいにながりといいました。 ををある。 ををしいたがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををいたする。 ををいたがるのの課題がなる。 ・海が昨年度、のののは人を進行したいののでは、 は、に、いるののは人を進行した。 は、ないときるのは、 は、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないとないとないないとないないない。 では、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3 3	評価のルーケー (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国)	が限られる。ホー情報の表示により、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 3-1 3-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 本業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 2 1	新の方代の性質を があった。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・卒業生の活できる。 ・容集がよいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいないが表し、かある。 がいながあった。 がいながあった。 がいながらいたる。 をでした。 がいながらいたが必要がたる。 をでの偏ししする。 がいながよいがある。 をでの偏ししする。 がいいくことが課題がいたり、地域かはの人ではできる。 がいいくながらいたがるのののとといいましたが、地域がはいたり、地域がはの人できながる。 をでの偏ししていいくことが課題がはしていいくながりたいには、ないでは、 がいたり、地域がはないとと、対象ををしていいくながりという国がはできない。 がいたり、地域がは、の人で接つたがもとしいにながりといいました。 ををある。 ををしいたがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををいたする。 ををいたがるのの課題がなる。 ・海が昨年度、のののは人を進行したいののでは、 は、に、いるののは人を進行した。 は、ないときるのは、 は、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないとないとないないとないないない。 では、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3 1	評価の上のでは、	が限られている。ホー情報の表示、「特報の表示を活用ると、情報の表示を活用る必要が業先に、次の状況、一切をできる。を理り、次の状況、一切を変求という。 一様の大学など、できない。 一様の大学など、できない。 一様の大学など、できない。 一様をしてない。 一様の大学など、できない。 一様をして、でいいというでは、できない。 一様の大学など、できない。 一様をして、でいいというでは、できない。 一様をといって、にいいというでは、できない。 一様をといって、にいい、できない。 「はいい、できない。」 「はいい、できない、できない、できない。」 「はいい、できない、できない、できない、できない、できない、できない、できない、でき
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 4-1 4-2 4-2 4-1 4-2 4-2 4-1 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2 4-2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 本業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3	特の分け、アマラット はなどと、映 年 にまる できなり はなどといりに 年 になります は 一年 ではと 運必 母どと、 い	・卒業生の活できる。 ・容集がよいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいない状況がTEA がいないが表し、かある。 がいながあった。 がいながあった。 がいながらいたる。 をでした。 がいながらいたが必要がたる。 をでの偏ししする。 がいながよいがある。 をでの偏ししする。 がいいくことが課題がいたり、地域かはの人ではできる。 がいいくながらいたがるのののとといいましたが、地域がはいたり、地域がはの人できながる。 をでの偏ししていいくことが課題がはしていいくながりたいには、ないでは、 がいたり、地域がはないとと、対象ををしていいくながりという国がはできない。 がいたり、地域がは、の人で接つたがもとしいにながりといいました。 ををある。 ををしいたがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなるがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををしいたがなる。 ををいたする。 ををいたがるのの課題がなる。 ・海が昨年度、のののは人を進行したいののでは、 は、に、いるののは人を進行した。 は、ないときるのは、 は、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないときるのは、 では、ないとないとないないとないないない。 では、ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	川内・割地・橋元・石澤 当 中原・牟禮・石	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3	評価のトラー は できない の で	を関いられている。ホー情報の表示を活出の表示を活出の表示を活出の表示を活出の表示を表示を表示を表示を確して表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 3-1 4-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1-1 1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 <地域社会> 建設との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動について、地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会へ二ズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 < 国際交流 >	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割地 当	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3 3 2 1 1	特の分け、アマンス はなどと、	・卒業生の活動の統計が作品 「一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・石澤 担	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3 1 1	評価のトンスター (大学の) (中央) (大学の) (大	大学 では、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 华業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動について、地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所が診置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割地	3 3 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	特の分析のというでは、大学・体のでは、大学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学・体学	・卒業生の活動の統計が作品 「一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・石澤 当	3 3 3 3 3 3 3 3 1 1 1	評価の上の大学を活という。 中生の対対 は 高度 を いっと で いっと いっと で いっと がいっと で いっと がいら と で いっと	大学 では、
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 を業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会 〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。 研究 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割地 担 貴島・	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 2 1 1	特の分け、アマンス はなどと、	・卒業生の活動の統計が作品 「一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・石澤 当 当	3 3 3 2 2 1 1 1 評価点 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 1 評価点 2	評価のレーケー (中国) は	大学の実施 を表している。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 IX 1 2	卒業時の到達状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 を業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会 〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 養成所の教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 〈国際交流〉 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。 研究 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割地 担 貴	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 2 1 1	特の方代のと、大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	・卒業生の活動にない状にない状にない状にないないできないできないできないがは、	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・石澤 担 中原・大川	3 3 3 2 2 1 1 1 評価点 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 1 評価点 2	評価のトラス (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国)	大学の実施 を表している。
2-1 2-2 2-3 3-1 3-2 4-1 4-2 VIII 1-1 2-2 3-1 3-2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1	卒業性の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業・進学状況を分析している。 卒業生の就業先との臂細を把握し、問題を明確にしている。 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 学業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。 地域社会/国際交流 〈地域社会〉 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。 も域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。 と国際交流 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。 研究 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。 教員の研究活動を除障(時間的、財政的、環境的)している。 教員の研究活動を除障(時間的、財政的、環境的)している。	川内・山田・石澤 担 中原・牟禮・割地 担 貴島・牟	3 3 2 2 1 1 3 3 3 3 3 3 2 1 1 1	特の分け、アマン はな生いり、映 年 により、 は は で は で で で で で で で で で で で で で で で	・卒業生の活動では、	川内・割地・橋元・石澤 担 中原・牟禮・石澤 当 中原・大	3 3 2 2 1 1 1 3 3 3 3 3 3 3 1 1 1 1	評価のような生い。 ・ 本本を地域のない。には、一、大の室口の対対、を対していり、中生態ののでは、対していり、対していり、では、対していり、では、対していり、では、対していり、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	大学 では、

自己点検・自己評価の項目別平均点(令和2年度・令和3年度)

	自己点検・自己評価項目	R5平均点	R6平均点
Ι.	教育理念·教育目的	2.9	2.8
Π.	教育目標	2.7	2.7
ш.	教育課程経営	2.9	2.9
IV.	教授・学習・評価過程	2.8	2.9
V.	経営・管理過程	2.9	2.9
VI.	入学	2.5	2.5
VII.	卒業・就業・進学	2.5	2.6
WII.	地域社会/国際交流	2.5	2.6
IX.	研究	2.3	2.3



